

地方独立行政法人静岡市立静岡病院

令和8年度計画



SHIZUOKA CITY SHIZUOKA HOSPITAL

地方独立行政法人静岡市立静岡病院



# 目次

	頁
第1 年度計画の期間	1
第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	
1 地域における役割・機能と担うべき医療	1
（1）静岡病院が担う役割・機能	
（2）静岡病院が担うべき医療（高度医療・専門医療、救急医療、感染症医療、災害時医療等）	
2 患者の視点に立った信頼される医療の提供	3
（1）患者中心の医療の推進	
（2）医療安全対策	
（3）患者サービスの向上	
3 医療従事者の確保と働き方改革	5
（1）医療従事者の確保	
（2）医療従事者の働きやすい環境づくり	
4 地域との連携	6
（1）地域の医療機関との連携	
（2）市や関係機関等との連携	
（3）市民への情報提供	
第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	
1 効率的な業務運営等	7
2 教育研修の充実	8
3 職員の勤務意欲の向上	8
4 事務部門の強化	9
第4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	
1 経営指標に係る数値目標の設定	9
2 収入の確保及び費用の節減	10
第5 その他業務運営に関する重要事項に係る目標を達成するためとるべき措置	
1 法令等の遵守	10
2 施設・医療機器等の更新	11
第6 予算（人件費の見積りを含む）、収支計画及び資金計画	
1 予算	12
2 収支計画	13
3 資金計画	14
第7 その他市の規則で定める業務運営に関する事項	
1 施設及び設備に関する計画	14
用語解説	15
（本文中、*印のついた用語について解説しています）	

## はじめに

静岡市立静岡病院は、救急医療や高度医療の提供など市立病院としての使命と、中期目標で求められている持続可能な地域医療の実現に向けて取り組み、目標の達成と病院経営の安定を目指す。

このため、質の高い医療及び患者中心の医療の推進、人材確保と働き方改革、地域医療機関との更なる連携、効率的な業務運営、将来を見据えた施設整備、経常収支比率の向上などを念頭に、令和8年度の重点事業、予算、収支計画、資金計画等を以下のとおり定める。

なお、本計画は、公立病院経営強化ガイドライン\*や静岡県地域医療構想\*を踏まえ策定した、当院における「公立病院経営強化プラン」である第3期中期計画（令和5年4月1日～令和9年3月31日）の一部である。

### 第1 年度計画の期間

令和8年4月1日から令和9年3月31日までの1年間とする。

### 第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

#### 1 地域における役割・機能と担うべき医療

##### (1) 静岡病院が担う役割・機能

今後、85歳以上の人口増加や現役世代の減少（いわゆる2040年問題\*）を背景に、地域医療構想が新たなフェーズを迎える状況を踏まえ、医療体制の将来像を検討し労働者人口の減少が見込まれる中で変化する医療ニーズに応じていきます。

地域医療を担う基幹病院として、救急医療や高度急性期医療を提供し、安全で質の高い医療ときめ細やかな看護を実践します。

地域の医療機関や介護施設と連携し、入院から退院、在宅復帰まで切れ目のない支援に取り組みます。住み慣れた地域で安心して暮らせる環境づくりに貢献し、社会保障制度の活用を通じて「治す医療」と「支える医療」の両立を目指します。

#### 目標値

項目	令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 実績	令和8年度 目標値
DPC入院期間Ⅱ*以内退院割合	66.1%	69.8%	70.5%	70.0%
入退院支援加算*算定件数	6,665件	7,595件	7,502件	5,500件
地域連携パス*（疾患別病診連携パス） 新規利用件数	362件	440件	440件	500件

#### 参考値

項目	令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 実績	
重症度、医療・看護必要度Ⅱ*	36.1%	36.6%	—	
重症度、医療・看護必要度Ⅱ①*	令和6年度診療報酬改定により基準が2段階に変更		26.6%	
重症度、医療・看護必要度Ⅱ②*			39.0%	
在宅復帰率*	97.0%	97.4%	97.1%	
医療機能別病床数	高度急性期*	355床	306床	349床
	急性期	145床	194床	151床

(2) 静岡病院が担うべき医療（高度医療・専門医療、救急医療、感染症医療、災害時医療等）  
（高度医療・専門医療）

静岡医療圏および周辺地域の多様な医療ニーズに応えるため、ハートセンターや大動脈・血管センター、新設した骨盤臓器脱センター\*および呼吸器センター\*などにおいて、各診療科が連携した専門性の高いチーム医療を提供します。

また、地域がん診療連携拠点病院\*として、身体への負担を抑えたロボット手術や外来化学療法などにより、がん患者の診断から手術・薬物療法・緩和ケアまで、患者一人ひとりに合わせた包括的な医療を実践します。

参考値

項目	令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 実績
カテーテルアブレーション*件数	368件	411件	379件
冠動脈インターベンション*件数	388件	477件	410件
開心術件数	212件	203件	225件
TAVI	103件	101件	125件
ステントグラフト治療*件数	107件	130件	113件
ロボット支援手術件数	131件	152件	203件
内視鏡手術件数	1,109件	1,187件	1,083件
内視鏡検査数	4,805件	4,881件	4,463件
PET/CT稼働件数	767件	793件	716件
悪性腫瘍手術件数	771件	742件	831件
がん化学療法延べ患者数	3,827人	3,921人	3,814人

(救急医療)

地域における救急医療の中核として、「断らない救急医療」を継続し、救急患者に対して適切かつ迅速な対応を行うことで、救急医療の最前線を担う責任を果たします。救急隊との意見交換を重ねることで、当院救急に求められるニーズを的確に把握し、より質の高い救急医療の提供に努めます。

清水地区をはじめとする周辺医療圏を含めた広域的な救急対応を行い、地域住民が安心・安全に生活できる体制を支える重要な役割を担います。

目標値

項目	令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 実績	令和8年度 目標値
救急搬送応需率*	95.9%	97.6%	95.5%	95.0%

参考値

項目	令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 実績
救急患者数	12,958人	13,305人	12,893人
救急車搬送患者数	6,989人	7,548人	7,612人
地域救急貢献率*	20.4%	20.6%	19.9%

(感染症医療)

県内唯一の第一種感染症指定医療機関\*として、迅速な患者受入れと適切な感染対策を継続して実施します。

新興・再興感染症やネクストパンデミックに備え、行政機関や周辺医療機関との連携強化、職員教育および感染防護具等の確保・備蓄により平時から安全確保に努めます。

国のサーベイランス\*や研究、国策への反映が可能な体制づくりに取り組む国立健康危機管理研究機構(JIHS) \*が主催する感染症臨床研究ネットワーク事業 (iCROWN) \*に参画し、当該事業の推進に貢献します。

参考値

項目	令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 実績
感染症対応用確保病床数(最大確保数)	28床	23床	6床
紫外線照射ロボット*稼働実績	2,050回	1,072回	41回
手指衛生用消毒液購入量	2,830ℓ	2,215ℓ	2,170ℓ
入院患者1人1日あたり病棟用購入量	17.4ml	13.8ml	13.1ml

(災害時医療)

災害拠点病院として、大規模災害発生に備えた職員向けの研修や災害訓練を実施します。加えて、国や地方公共団体等の関係機関と連携し、組織体制やその実効性を検証するとともに、相互協力の円滑化を図る「大規模地震時医療活動訓練」に取り組めます。訓練を重ねることで万一の事態に備え、医療機能の安定性と安全性の確保に努めます。

また、災害派遣医療チーム(DMAT)の活動体制を整え、隊員の訓練や活動準備を定期的に行うことで、広域的な災害発生時における医療提供体制を維持し、被災者への迅速かつ適切な医療支援の実現を目指します。

参考値

項目	令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 実績
防災訓練開催回数	4回	4回	4回
DMAT隊チーム数	2チーム	2チーム	2チーム

2 患者の視点に立った信頼される医療の提供

(1) 患者中心の医療の推進

患者・家族が医療内容を十分に理解し、納得したうえで治療を受けられるよう、適切なインフォームドコンセントを行います。

また、患者と医療者が互いに尊重し合う対等なパートナーとして協力し、患者の心と体に寄り添った患者中心の医療を実践するとともに、最善の全人的医療の提供を目指します。

専門職による医療相談や退院調整を通じて、患者・家族がより良い療養および社会生活を送れるよう、迅速かつ継続的な支援を行います。

参考値

項目	令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 実績
総合相談件数	5,285件	5,714件	6,266件
(内訳)			
退院調整(在宅)	49.0%	45.3%	43.8%
退院調整(転院)	30.3%	27.4%	25.3%
経済的な相談	5.2%	3.9%	4.8%
受診に関する相談	1.9%	2.1%	1.2%
その他	13.6%	21.3%	24.9%

(2) 医療安全対策

安全な医療を提供するため、インシデントレポート\*を収集し、事例の分析と検討を推進します。職員研修を企画・実施し、職員の安全意識の更なる向上を図ります。また、他の医療機関と連携を図り、相互評価を実施することで、医療の安全と質の向上に努めます。

クリニカルパス\*を活用し、治療プロセスの標準化を推進し、質の高い安全な医療の提供に努めます。

目標値

項目	令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 実績	令和8年度 目標値
インシデントレポート件数(※)	2,702件	2,865件	3,001件	2,200件

※ 続発症含む

参考値

項目	令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 実績
入院患者の転倒・転落発生率*	0.28%	0.28%	0.28%
医療安全作業部会開催回数	43回	52回	43回
クリニカルパス数	166	207	246

(3) 患者サービスの向上

日ごろ寄せられるご意見や患者満足度調査の結果を院内で幅広く共有し、個々の意見や具体的な要望を踏まえながら、患者・家族の立場に立った質の高い患者サービスの提供に努め、安心して信頼される医療環境の実現を目指します。

職員研修により、委託業者を含む病院に携わる全ての職員に接遇の大切さを浸透させ、接遇レベルの向上を図ります。

目標値

項目	令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 実績	令和8年度 目標値
入院患者満足度(※)	89.8%	91.6%	91.6%	90.0%
外来患者満足度(※)	83.7%	89.6%	86.5%	85.0%

参考値

項目		令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 実績
入院患者満足度（接遇項目のみ）（※）		92.9%	92.9%	92.5%
外来患者満足度（接遇項目のみ）（※）		87.3%	87.5%	88.1%
提案箱投書件数		94件	106件	97件
（内訳）	苦情	45.7%	54.7%	62.9%
	提案、要望	29.8%	18.9%	17.5%
	感謝、お褒め	24.5%	24.5%	19.6%
	その他	0.0%	1.9%	0.0%

※「満足」以上とした割合

### 3 医療従事者の確保と働き方改革

#### （1）医療従事者の確保

高度・専門医療および救急医療等を安定的に提供するため、大学や専門学校等の関係教育機関との連携を強化し、医師・看護師・薬剤師など医療従事者の確保と育成に努めます。

また、歯科医師臨床研修プログラム新設に向け、若手歯科医師の育成環境の整備に取り組みます。

新専門医制度の基幹病院として、当院の研修環境の魅力発信と教育・研修体制の充実に取り組み、専攻医の確保と育成に努めます。

参考値

項目		令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 実績
医師・歯科医師数		167人	169人	177人
	（うち、専攻医数）	（35人）	（29人）	（31人）
	（うち、研修医数）	（26人）	（27人）	（27人）
助産師・看護師数		528人	526人	545人
医療技術員数（※）		170人	174人	177人
各種専門資格を有する職員数		126人	138人	138人
（内訳）	医師・歯科医師	92人	102人	102人
	助産師・看護師	18人	19人	19人
	医療技術員数（※）	16人	17人	17人

※ 医療技術員・・・薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、視能訓練士、臨床工学技士、歯科衛生士

#### （2）医療従事者の働きやすい環境づくり

職員が個々の能力を十分に発揮できる環境の構築を目標に、労働時間や勤務実態の継続的な把握を行うとともに、健康診断やストレスチェックの結果を活用した心身の健康管理を徹底し、勤務環境の向上を図ります。

医師の働き方改革の重要な取り組み施策であるタスク・シフト／シェアを各部門でさらに促進し、医師の労働時間の削減と多職種で質の高い医療を提供できる体制を整えます。

職員が仕事と私生活の調和を保ちながら継続的に働ける職場を目指し、休暇取得の促進や働き方に対する意識改革を推進し、健全な医療提供体制の構築に努めます。

目標値

項目	令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 実績	令和8年度 目標値
有給休暇の年間取得日数(医療従事者)	12.6日	12.3日	13.7日	13.5日
医師の平均時間外勤務時間数	48.5時間/月	48.6時間/月	47.2時間/月	40.0時間/月

参考値

項目	令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 実績
有給休暇の年間取得日数(医療従事者)			
(内訳)			
医師・歯科医師	9.7日	12.1日	11.8日
助産師・看護師	13.8日	11.8日	14.4日
医療技術員(※)	11.9日	13.8日	13.6日
時間外勤務 年960時間超えの医師数	14人	12人	8人
看護師特定行為研修*修了者数	2人	8人	3人
うち、当院職員修了者数	1人	6人	3人

※ 医療技術員・・・薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、視能訓練士、臨床工学技士、歯科衛生士

#### 4 地域との連携

##### (1) 地域の医療機関との連携

地域の医療をより充実させるため、病病・病診連携や保健・福祉機関との協力を積極的に推進し、地域医療構想の実現に向け、医師の派遣や情報共有などにより地域全体の医療ネットワークの強化に取り組み、途切れのない医療サービスの提供を目指します。

3病院医療機能連携協定\*による交流を通じて、各病院の医療機能を活かした相互連携の強化に努め、地域医療を支えます。

目標値

項目	令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 実績	令和8年度 目標値
紹介率*	90.6%	90.8%	91.8%	87.0%
逆紹介率*	155.5%	153.5%	166.1%	140.0%

参考値

項目	令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 実績
連携安心カード(オレンジカード)* 新規発行枚数	231枚	231枚	194枚

## (2) 市や関係機関等との連携

地域の基幹病院として関係機関等と緊密に連携し、政策医療を推進します。教育機関からの実習受け入れや救急救命士の養成を通じて、地域の医療技術向上と人材育成に取り組み、医療サービスの安定的な提供と医療従事者の定着に努めます。

参考値

項目	令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 実績
看護実習受入実人数(看護学校)	482人	554人	458人
救急救命士実習受入人数(消防局)	2人	14人	7人
障がい者職場実習受入人数(支援学校等)	9人	1人	9人

## (3) 市民への情報提供

ホームページや広報誌、SNS(公式LINE・YouTube)を活用し、病院の機能や診療実績、医療に関する正確でわかりやすい情報を市民に提供します。

また、市民向け「からだの学校」などの公開講座や各地域への出前講座、学生向けの「がん教育\*」を通じて、健康管理や疾病予防の理解を深め、市民・患者の健康増進に貢献します。

さらに、「病院フェア」を開催し、市民との交流を通じて、より病院が身近に感じられるような情報提供体制を進めます。

目標値

項目	令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 実績	令和8年度 目標値
病院ホームページ訪問数(※)	453,099	471,482	517,204	570,000

※ 訪問数…セッション数。ホームページへのアクセスから離脱までを「1」とする指標。

参考値

項目	令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 実績
病院出前講座 受講延べ人数	1,036人	730人	901人
中学生対象「がん教育」活動実績	9校 15講義・11日間	9校 14講義・9日間	7校 12講義・7日間

## 第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

### 1 効率的な業務運営等

地方独立行政法人としての制度的な柔軟性を最大限に活用し、財務および人事面において柔軟な運用を図ります。導入2年目となる診療科別重要業績評価指標(KPI)の管理を向上させ、当院の経営に寄与する実効性のある進捗管理を行います。

物価上昇の長期化や人件費の増大など、厳しさを増す経営環境の中で、診療報酬改定の内容を踏まえた収益増加対策や、医薬品・診療材料・委託料に対する効率的な費用削減対策に取り組みます。

職員の経営意識およびマネジメント力の向上に努め、地域における中核的医療機関としての役割を果たしての役割を果たします。

目標値

項目	令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 実績	令和8年度 目標値
1日平均入院患者数*	419人	407人	405人	420人
平均在院日数*	11.6日	10.6日	10.4日	11.0日

参考値

項目	令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 実績
入院単価	91,128円	96,807円	100,204円
新入院患者数	12,110人	12,795人	13,010人

## 2 教育研修の充実

多様化する学習ニーズに対応するため、計画的に教育環境の整備を進め、Webを活用した研修やeラーニングの充実を図ります。職員が時間や場所に制約されることなく、継続的かつ効率的に学習できる体制を構築し、職種や経験年数に応じた段階的な能力向上を支援します。

また、高度化・専門化する医療への確に対応し、質の高い安全な医療を提供できるよう、シミュレーションラボ室\*を活用した実践的教育を推進します。臨床現場を想定した訓練を体系的に実施することで、診療技術の向上を図るとともに、医療安全意識の向上やチーム医療の推進に寄与し、医療の質の継続的な改善を目指します。

これらの取組を通じて医療水準の向上を図るとともに、臨床研修指導医の育成を計画的に進め、教育体制の安定化と指導力の向上を図り、将来にわたり持続可能な医師教育の基盤強化に努めます。

目標値

項目	令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 実績	令和8年度 目標値
実習プログラム(※)受講延べ人数	1,780人	1,498人	2,353人	1,100人

※ 実習プログラム…主に医師・看護師対象の、トレーニング機器を利用した診療行為別の訓練メニュー

参考値

項目	令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 実績
シミュレーションラボ室利用延べ人数	4,309人	3,848人	4,889人
臨床研修指導医数	56人	59人	58人

## 3 職員の勤務意欲の向上

職員が自らの専門性を高めながら長く働き続けられるよう、学び直しや資格取得を後押しする支援策を拡充します。

日々の業務への取組姿勢や成果が人事評価に適切に反映されているかを検証し、評価の公平性・納得性の向上に向けて取り組みます。

職員満足度調査により、働きやすい職場づくりや処遇の改善を進めるとともに、専門性や経験を活かした人材配置や登用を推進します。管理職への登用機会の拡大や自己研鑽への支援を通じて、仕事への意欲とやりがいの向上を図ります。

目標値

項目	令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 実績	令和8年度 目標値
職員満足度（5段階評価）				
Q.現在の仕事にやりがいがあると思いますか	3.71	3.78	3.79	3.75
Q.当院を職場としてすすめようと思いますか	2.92	2.91	2.99	2.95

参考値

項目	令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 実績
資格取得支援制度利用者数	7人	8人	4人
教育休職制度等利用者数	2人	1人	1人
育児・介護休業制度利用者数	75人	84人	99人

4 事務部門の強化

事務部門の機能向上を図るため、部門横断的な連携を強化するとともに、専門的知識と実務能力を兼ね備えた職員の育成に取り組みます。

事務職員を対象とした「事務職員人材育成プラン」により、将来を見据えた計画的なキャリア形成を推進します。

また、事務職員が講師を務め、事務部門の知識を習得する内部研修や、市との連携による研修、計画性を持った採用および人事配置を行うことで、事務部門全体の基盤強化に努めます。

参考値

項目	令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 実績
自院主催研修 事務職員受講者数	60人	63人	58人
静岡市主催研修 事務職員受講者数	19人	17人	6人
医療団体等主催外部研修 事務職員受講者数	9人	19人	17人

第4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

1 経営指標に係る数値目標の設定

少子高齢化や人口減少に伴う医療需要の変化、物価や人件費の上昇など、病院経営を取り巻く外部環境が非常に厳しい状況の中、地域医療の中核を担い、政策医療や不採算医療等の安定的な提供を目指します。

地方独立行政法人としての特色を生かし、効率的かつ柔軟な病院運営により、限られた資源を有効に活用するとともに、持続可能で安定した財務基盤の構築に取り組みます。

目標値

項目	令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 実績	令和8年度 目標値
経常収支比率*	105.1%	100.4%	96.9%	100.0%以上
医業収支比率*	94.2%	94.4%	92.7%	94.0%以上

参考値

項目	令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 実績
不良債務比率*	0%	0%	0%
資金不足比率*	0%	0%	0%
累積欠損金比率*	0%	0%	3.6%

## 2 収入の確保及び費用の節減

### 【収入の確保】

地域の医療機関と連携し、患者一人ひとりの状態に応じた適切な医療の提供を維持し、病床や医療資源の有効活用、診療報酬制度や施設基準の変化への迅速な対応により、安定した収益の確保を目指します。

### 【費用の節減】

物価上昇が続く状況の中、医療の質と安全性を維持し患者サービスの向上に配慮しながら、適正な人員配置や診療材料等のコスト管理を徹底し、効率的な医業経営を目指します。

目標値

項目	令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 実績	令和8年度 目標値
職員給与費比率*	48.2%	46.8%	49.3%	50.0%以下
経費比率*	16.2%	15.7%	16.0%	18.0%以下
委託費比率*	8.2%	8.0%	8.1%	9.1%以下

参考値

項目	令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 実績
病床稼働率* (506床)	82.8%	80.4%	80.1%
入院収益	13,931百万円	14,416百万円	14,830百万円
外来収益	5,926百万円	6,247百万円	6,031百万円
薬品費比率*	18.3%	18.6%	17.8%
診療材料費比率*	16.1%	17.2%	17.5%

## 第5 その他業務運営に関する重要事項に係る目標を達成するためとるべき措置

### 1 法令等の遵守

公的医療機関としての責任を果たすため、関連法令の遵守を徹底し、医療法や労働基準法、個人情報保護法等に沿った業務運営を行います。

各種内部規程を整備・維持し、職員が規則を理解・遵守できるよう、定期的な内部監査や研修を実施して規範意識の浸透を図ります。

参考値

項目	令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 実績
医療法第25条第1項に基づく立入検査*での指摘事項数	0件	0件	7件
個人情報保護講演会受講者数	777人	817人	455人
ハラスメント防止研修会受講者数 (所属長対象)	55人	78人	73人

## 2 施設・医療機器等の更新

地域の医療需要や社会情勢、医療政策の動向を踏まえ、計画的かつ効率的に医療機器の更新や施設整備を進め、医療の質向上と業務効率化の両立を目指します。令和8年度の施設整備では、以下の更新・工事を予定しています。

＜主な施設整備及び医療機器の更新＞

- ・磁気共鳴断層撮影装置（MRI）更新
- ・放射線治療システム（リニアック）更新
- ・ICU病床改修工事
- ・ナースコール更新工事
- ・防災表示装置更新工事
- ・院内照明器具更新
- ・医療ガス圧縮装置更新工事
- ・手術台更新
- ・生体情報モニタ更新

令和7年度に導入した院内スマートフォンの活用により業務の質と効率の向上を図るとともに、医療DX\*の推進に向けてデジタル技術の活用を段階的かつ継続的に検討し、診療支援体制の充実及び医療従事者の負担軽減を図ります。

老朽化した西館等の施設については、医療の高度化や技術の進展に適応するため、市と十分に連携を図りながら、再整備に向けた準備を進めます。

## 第6 予算（人件費の見積りを含む）、収支計画及び資金計画

### 1 予算（令和8年度）

（単位：百万円、税込）

区分	金額
収入	25,149
営業収益	24,577
医業収益	22,209
運営費負担金収益	2,087
補助金等収益	281
営業外収益	139
運営費負担金収益	43
財務収益	5
その他営業外収益	91
臨時利益	0
資本収入	434
補助金等収益	103
長期借入金	300
その他資本収入	31
その他収入	0
支出	26,373
営業費用	24,229
医業費用	23,795
給与費	11,062
材料費	8,687
経費	3,952
研究研修費	94
一般管理費	434
給与費	430
経費	4
営業外費用	127
臨時損失	0
資本支出	2,017
建設改良費	1,351
償還金	600
その他資本支出	67
その他支出	0

※1 計数は項目ごとに端数を四捨五入しているため、合計が一致しない場合がある。

※2 期間中の給与改定、物価の変動等は考慮していない。

#### [人件費の見積り]

期間中総額 11,492 百万円を支出する。

なお、当該金額は、役員報酬、職員基本給、職員手当、法定福利費及び退職手当の額に相当する。

#### [運営費負担金の繰出基準等]

救急医療等の行政的経費及び高度医療等の不採算経費については、毎年度総務省が発出する「地方公営企業繰出金について」に準じた考え方により算出する。建設改良費及び長期借入金等元利償還金に充当される運営費負担金については、経常費助成のための運営費負担金とする。

## 2 収支計画（令和8年度）

（単位：百万円、税抜）

区分	金額
収入の部	24,735
営業収益	24,603
医業収益	22,168
運営費負担金収益	2,087
補助金等収益	281
資産見返負債戻入	68
営業外収益	132
運営費負担金収益	43
財務収益	5
その他営業外収益	84
臨時利益	0
支出の部	25,837
営業費用	24,510
医業費用	24,078
給与費	11,056
材料費	7,873
経費	3,679
減価償却費	1,383
研究研修費	87
一般管理費	433
営業外費用	1,326
臨時損失	0
純損失	▲1,101
目的積立金取崩額	0
総損失	▲1,101

※1 計数は項目ごとに端数を四捨五入しているため、合計が一致しない場合がある。

※2 期間中の給与改定、物価の変動等は考慮していない。

※3 本表は各項目から消費税及び地方消費税相当額を控除し、同額を営業外費用に計上している。

### 3 資金計画（令和8年度）

（単位：百万円、税込）

区分		金額	
資金収入		29,948	
資金収入	業務活動による収入	24,710	
	診療業務による収入	22,209	
	運営費負担金による収入	2,130	
	その他の業務活動による収入	371	
	投資活動による収入	134	
	補助金等による収入	103	
	その他の投資活動による収入	31	
	財務活動による収入	305	
	長期借入れによる収入	300	
	その他の財務活動による収入	5	
前年度からの繰越金		4,799	
資金支出		29,948	
資金支出	業務活動による支出	24,356	
	給与費支出	11,492	
	材料費支出	8,687	
	その他の業務活動による支出	4,177	
	投資活動による支出	1,010	
	有形固定資産の取得による支出	943	
	その他の投資活動による支出	67	
	財務活動による支出	1,007	
	長期借入金の返済による支出	300	
	移行前地方債償還債務の償還による支出	300	
	その他の財務活動による支出	407	
	次年度への繰越金		3,575

※1 計数は項目ごとに端数を四捨五入しているため、合計が一致しない場合がある。

※2 期間中の給与改定、物価の変動等は考慮していない。

## 第7 その他市の規則で定める業務運営に関する事項

### 1 施設及び設備に関する計画（令和8年度）

（単位：百万円、税込）

内容	予定額	財源
施設、医療機器等整備	1,351	静岡市長期借入金等

## 《 用語解説 》 (五十音順)

### 【あ】

- ・ 医業収支比率  
(医業収益／医業費用) ×100
- ・ 委託費比率  
(委託費(一般管理費除く)／医業収益) ×100
- ・ 1日平均入院患者数  
延べ入院患者数／365日又は366日
- ・ 医療法第25条第1項に基づく立入検査  
病院が医療法及び関連法令により規定された人員及び構造設備を有し、適正な管理を行っているか、市長が任命した医療監視員による立入検査。原則年1回実施。
- ・ 医療DX(デジタルトランスフォーメーション)  
診察・治療・薬剤処方、診断書等の作成、診療報酬の請求などにおいて発生する情報やデータを通して、医療関係者の業務やシステム、データ保存の外部化・共通化・標準化を図り、より良質な医療を受けられるよう戦略的、構造的に再構築していくこと。
- ・ インシデントレポート  
事故につながりかねない医療行為を未然に防げた例や、実施されたが結果的に患者に傷害や不利益を及ぼさなかった事象、日常診療で起こりそうな医療事故や医療過誤などに事前に気付いて対処できた事例などの報告書。

### 【か】

- ・ カテーテルアブレーション  
カテーテルという直径2mm程度の細い管を足の付け根から心臓に挿入し、不整脈発生箇所をカテーテルで焼き切る治療法。
- ・ がん教育  
健康教育の一環として、がんについての正しい理解と、患者や家族などがんと向き合う人々に対する共感的な理解を深め、自他の健康と命の大切さについて学び、共に生きる社会づくりに寄与する資質や能力の育成を図る教育。
- ・ 看護師特定行為研修  
看護師が手順書により特定の行為を行う場合に、特に必要とされる実践的な理解力、思考力及び判断力並びに高度かつ専門的な知識及び技能の向上を図るための研修。
- ・ 感染症臨床研究ネットワーク事業(iCROWN)  
国立健康危機管理研究機構(JIHS)が主催する研究事業。国や自治体の支援のもと感染症指定医療機関等が連携し、新たに発生する感染症に対し国が迅速に対策を講じられるよう、科学的知見の創出から医薬品等の実用化に至る幅広い研究を推進する。
- ・ 冠動脈インターベンション(PCI)  
狭くなったり(狭窄)詰まったり(閉塞)した冠動脈をカテーテルという細い管を用いて治療する方法。
- ・ 逆紹介率  
逆紹介患者数／初診患者数(※) ×100  
(※) 初診患者数＝初診患者総数－(救急車により搬入された初診患者数＋休日又は夜間に受診した救急初診患者数)
- ・ 救急搬送応需率  
転院を除く搬送人員／問い合わせ回数

- ・ クリニカルパス  
治療や検査にあたってどのような経過をとるのか、その実施内容や順序を示したスケジュール表のこと。医療の介入内容を一元化することで、チーム医療の実現、医療の質の向上を図ろうとするもの。
- ・ 経常収支比率  
(経常収益／経常費用) ×100
- ・ 経費比率  
(経費(一般管理費除く)／医業収益) ×100
- ・ 高度急性期  
急性期の患者に対して、状態の早期安定化に向けて、診療密度が特に高い医療を提供する必要がある時期のこと。高度急性期－急性期－回復期－慢性期。  
(急性期) 病気や怪我による症状が急激に現れ、健康が失われる時期のこと。  
(回復期) 患者の容態が危機状態(急性期)から脱し、身体機能の回復を図る時期のこと。  
(慢性期) 病状は比較的安定しているが、治療が困難で病気の進行が穏やかな状態で続いている時期のこと。
- ・ 公立病院経営強化ガイドライン  
持続可能な地域医療体制を確保するため、「経営力の強化」や「病院機能強化」を目指し、令和4年3月に総務省から公表されたガイドライン。
- ・ 呼吸器センター  
肺悪性腫瘍や呼吸器疾患などに、呼吸器内科と呼吸器外科が連携し診療を行うセンター。令和8年1月に開設。
- ・ 国立健康危機管理研究機構(JIHS)  
感染症を中心とする健康危機に備え、情報収集・分析による評価、開発から臨床試験までを担う研究機能、高度医療を提供する臨床機能、人材育成と国際協力等を一体的に備えた機関。NIID 国立感染症研究所と NCGM 国立国際医療研究センターが統合され令和7年4月に設立。
- ・ 骨盤臓器脱センター  
高齢化等による骨盤臓器脱に、産婦人科・消化器外科・泌尿器科が一体となり横断的な診療を行うセンター。令和7年10月に開設。

## 【さ】

- ・ 在宅復帰率  
自宅又はそれに類する施設に退院された患者数／死亡等を除く退院患者数
- ・ サーベイランス  
感染症の流行を早期発見するため発生状況を継続的に調査し、得られた情報の分析、解析を行うこと。
- ・ 紫外線照射ロボット(ライトストライク)  
パルス方式キセノン紫外線を自動照射することで、短時間に高頻度接触表面を消毒することができ、十分な消毒効果を発揮することができるロボット。
- ・ 資金不足比率  
(資金不足額(※)／(営業収益－受託工事収益の額) ×100  
(※) 資金不足額＝流動負債＋建設改良等以外の経費の財源に充てるために起こした地方債残高－流動資産
- ・ 静岡県地域医療構想  
地域の医療提供体制の将来の目指すべき姿として静岡県が作成。病床の機能分化、在宅医療等の充実、医療従事者の確保・養成、介護従事者の確保・養成、住まいの安定的な確保を掲げている。

- ・シミュレーションラボ室  
医師や研修医、看護師その他メディカル・スタッフ等が、随時トレーニングを行えるよう、様々なシミュレーション機器を取り揃えた研修室。
- ・重症度、医療・看護必要度Ⅱ  
基準を満たす患者（※）／延患者数（評価対象外患者を除く）×100  
（※）基準を満たす患者：次のいずれかに該当  
①A項目3点以上、②A項目2点以上かつB項目3点以上、③C項目1点以上
- ・重症度、医療・看護必要度Ⅱ①  
基準を満たす患者（※）／延患者数（評価対象外患者を除く）×100  
（※）基準を満たす患者：A項目3点以上またはC項目1点以上に該当
- ・重症度、医療・看護必要度Ⅱ②  
基準を満たす患者（※）／延患者数（評価対象外患者を除く）×100  
（※）基準を満たす患者：A項目2点以上またはC項目1点以上に該当
- ・紹介率  
文書により紹介された患者数／初診患者数（※）×100  
（※）初診患者数＝初診患者総数－（救急車により搬入された初診患者数＋休日又は夜間に受診した救急初診患者数）
- ・職員給与費比率  
（給与費（一般管理費除く）／医業収益）×100
- ・診療材料費比率  
（診療材料費／医業収益）×100
- ・ステントグラフト治療  
ステントといわれるバネ状の金属を取り付けた人工血管を、カテーテルで足の付け根から施術する、患者の身体への負担が非常に少ない治療法。

#### 【た】

- ・第一種感染症指定医療機関  
感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律で定められた一類感染症（エボラ出血熱、天然痘、ペスト等）、および二類感染症（結核、SARS、MERS等）の患者を受け入れる医療機関。
- ・地域がん診療連携拠点病院  
地域におけるがん治療水準の向上に努め、がん患者や家族に対する相談支援や、がんに関する各種情報の提供等、県が定めたがん診療機能などの指定要件をクリアし、質の高いがん医療を提供することができる病院。
- ・地域救急貢献率  
当院救急搬送患者数／静岡医療圏救急搬送患者数
- ・地域連携パス  
急性期病院から回復期病院等を経て、早期に自宅で療養できるよう診療計画（クリティカルパス）を作成し、関わる全ての医療機関で共有するもの。複数の医療機関で役割を分担することで、医療連携体制に基づきチームで患者を支える。

#### 【な】

- ・入院患者の転倒・転落発生率  
転倒・転落者数／入院延べ患者数×100
- ・入退院支援加算  
入院早期より退院困難な要因を有する患者を抽出し、退院・在宅復帰に向けて支援すると算定できる診療報酬。

#### 【は】

- ・病床稼働率  
（1日当たり入院患者数／病床数）×100

- ・不良債務比率  

$$\frac{\text{不良債務}(\text{※})}{\text{医業収益}} \times 100$$

$$\text{※) 不良債務} = \text{流動負債} - (\text{流動資産} - \text{翌年度繰越財源})$$
- ・平均在院日数  

$$\frac{\text{在院延べ患者数}}{((\text{新入院患者数} + \text{退院患者数}) \times 1 / 2)}$$

#### 【や】

- ・薬品費比率  

$$\frac{\text{薬品費}}{\text{医業収益}} \times 100$$

#### 【ら】

- ・累積欠損金比率  

$$\frac{\text{累積欠損金}(\text{当期末処理損失})}{\text{営業収益}} \times 100$$
- ・連携安心カード(オレンジカード)  
 当院と静岡市静岡医師会の診療所で医療情報を共有し、紹介・逆紹介患者に安心感を与えると共に、急変時の速やかな医療の提供を目的としたカード。

#### 【D】

- ・DPC入院期間Ⅱ  

$$\frac{\text{DPC}(\text{※})}{\text{分類ごとに計算された平均在院日数}}$$

$$\text{※) DPC}(\text{診断群分類})$$
 入院期間中に医療資源を最も投入した「傷病」と、手術、処置、化学療法などの「診療行為」の組合せにより分類。約 500 の疾患に対して 4,000 以上の診断群に分類している。

#### 【2】

- ・2040年問題  
 「団塊ジュニア世代」が65歳以上を迎え、総人口に占める高齢者の割合が大幅に増加し、労働力不足や経済の停滞、社会保障費の増大や医療／介護需要の急増が予想される諸問題の総称。

#### 【3】

- ・3病院医療機能連携協定  
 静岡市中心部(おまち)に位置する静岡市立静岡病院・静岡厚生病院・静岡赤十字病院の3病院による連携協定。お互いの医療機能を最大限に活用し、より安心・安全で質の高い医療を提供する。令和7年4月に締結。